扁桃腺の夏

峰岸 達

昭和19年、高崎市に生まれる。セツモードセミナー卒。デビュー作「夏の放課後」（'80・11月号）。現在、イラストレーター。

ラジオ体操が終ると

係のおじさんが出席カードに
ハンコを押してくれる

これからもずっとがんばって下さい。また描かせて下さい。

さとる
今日も
プールな！
ダメだ
オレ今日
入院
扁桃腺
切るんだ

へーっ
ノドチンコ
切るんか
！

バカ
ノドチンコ切ったら
死んじゃうよ
扁桃腺と
ノドチンコは
違うよ

アッそう！
ノドチンコ
とがらせ
力道山！
豆腐屋の息子の
青田隆夫は、みんなから
アホ田バカ夫と呼ばれていた

夏休みに入って五日目の事だった

耳鼻咽喉科

松川病院

痛いかなァ

手術室
手術はアッという間に
すんだ
痛みはほとんどなかった

ここで
一週間
じっとして
なさい

一週間なんて
おおげさだなァ

病室は合部屋でとなりには
ぼくと同じくらいの年の
丸顔の女の子がいた
よろしく
よろしく
………

あたし
六郷小学校
四年二組
山崎ツル子

アッ、オレ、
アッ、アノ、
オレ、ボボク
北小学校
四年一組
岸本
さとる
少しドモって
しまった

その女の子は遠い町から来ていた
やはり扁桃腺の手術で、三日前
から入院してるという

あたしカラスの
鳴き真似が
上手よ
カー
カー
カー
カー
唐突に
カラスの鳴き真似をした

仲よくして
あげてね
ツル子ちゃん
ええ
いいわよ
病院のベッドの
上でのピンクのリボン
もなにか唐突だった

夕方
姉は帰って
しまった
ぼくは困って
しまった
女の子と二人
だけというのは
どうも具合が
悪い

寝たふりなど
してみる
のだが……
どうも
落ちつか
ない……

が、向こうは
平気な顔で
気楽に
してね
などと
いうのだった

その日は何も食べさせて
もらえず、夜も更けてくると
食べ物の事で、頭がいっぱい
になった
スイカ
カレーライス
スルメ
メシ
シナソバ
バナナ

あくる日
お昼におかゆを食べているところ、昨日とは別の姉が来た
具合どう？
昨日より今日のが痛いよ！
ぼくの家には姉が五人もいる

痛くてさァうまく食えねんのどしみて
あーあ

たまにはその方がいいよ普段イヤしいから
ハハハ

そうだこれ……
本買ってきてやったんだもんね

ためになるよ！
美しい話
四年生

ふーん「美しい話」…か、ふーん……

なんか不満そうだね！
イヤ別に…

しかしできるなら
馬場のぼるの「ポスト君」

さもなけりゃ杉浦茂の「西遊記」
さもなけりゃ山根一二三の「のんきなトン兵衛」
さもなけりゃ……

知らないよいちいちそんなの！
おまえのはマンガばっか！

姉は気を悪くして帰ってしまった
マンガのがいいのになァ

そして
流行歌を歌いながら
人前で平気で着替えを
したりするのだった

♬花を召しませ
ランララン♪

愛の紅バラ
恋の花♬

松島トモ子の歌では
なく、美空ひばりの
歌だった

三日目の夜には
ノドの痛みも随分
やわらいでいた

山崎ツル子は明日
退院するという
やっと馴れてきたところだった
のだが……
「関の弥太っぺ」って
変な題名ね
うん

向い側の雑貨屋のへいに張って
ある黒川弥太郎主演の大映映画
「関の弥太っぺ」のポスターが
外燈に照らされていた
関の弥太っぺ

長谷川一夫は
昔、林長二郎
っていったのよ
今度は長谷川一夫が
唐突に出てきた

うん それ知ってる
その頃 ヤクザにほんとに 顔を切られた事 があるんだぜ

へーっ そんな事が あったの タイヘンね
小学四年生にしては 妙な会話だった

なぞなぞ 出すね 上は大水 下は大火事 なーんだ？
えーと えーと 風呂！

じゃ 上は算数 下は体操 なーんだ？
えーと 柱時計！

じゃ 上は国語 下は社会科
えーと えー？ なんだそれ わかんない！

でたらめ
いった
だけ
……

ツル子
もう
寝なさい
！

見舞いに来ている
山崎ツル子の姉さんだった
寝なさい！
もう
それくらいにして
寝なさい！
この顔の全然似てない
姉さんが、ぼくはあまり
好きじゃなかった

あんたも
寝な
さい！
人前で
オナラをして
平気な顔をしていた
ブー

益々嫌いになった
いいから
寝な
さい！
脇毛も
下品だった
寝なさい
！

あくる日
予定通り、山崎ツル子は
退院していった
じゃあ
お先にね
グッバイ
うん
じゃあな
ツル子
早くしなさい
早くったら早く
ピンクのワンピースが
きれいだった
リボンもいつもより
大きく結んでいた

しかし
山崎ツル子のバカに明るい態度に
ぼくは少しガッカリしたのだった
♬花を
召しませ
ラン
ララン♪
早く早く!
早くしなさいったら
早くったら早くったら
早くしなさい早く
その日以後
山崎ツル子と
合う事は
二度となかった

それから
退院までの三日間は
ただ退屈なだけの
毎日だった
プールが恋しかった

再びぼくの夏休みが始った
みんなと比べぼくの色の白さが、少し気になった

その日隆夫が頭にヘンなものをつけていた
なにそれ?
エジソンバンド
これつけてるとアタマがよくなるんだ東京でハヤッてんだぞ

隆夫は胸を張った
そうだ!

それつけてるとバカが直るんか!

待ち遠しかったプール——
ぼくらは海水パンツのまま
近くの市営プールまで走る！

ノドチンコ切って痛かったろ?

効き目はまだ現われていないようだった——

おわり